

例年なら、この時期冬模様の景色が、志賀高原などに広がるのですが、今年は、大地周辺の里山では、まだ紅葉の居残りが楽しめる季節です。大地の薪ストーブも連日活躍していますが、室内には入りほっとした暖かさという感動よりも、外へ出るとすーとするという気分になることもあります。ジャンパーを着ることもなく、普通に外で過ごし、少々寒くても、当然のごとくお弁当は戸外で食べている毎日。天候や季節の変化に敏感になる以上に、日常の生活を無意識にリズムとして取り入れて平常に過ごす姿に、実は深く強いエネルギーのある子ども達のすばらしさを感じます。

また、この時期の子ども達の安定さは際立つものがあり、今年この人数での集団は、見守る大人が一人で十分で、その自立と自分たちで担うという力と意識向上のために、なるべく、一人で見守る世界を作っています。一人のスタッフの元に、全員のエネルギーが集まり、分散するよりも、一つの家族集団として、同じ方向に向かい、一つの目標、世界を全員で共有する日々を過ごすことが出来ます。そして側面から、青ちゃんのダイナミックな散歩や遊び、ノンタン母さんのわらべ歌やお話、青ちゃん姉ちゃんのきめ細かな子ども達への対応、まりちゃんの朝の会、なみちゃんの午後の絵本の時間等の受け持ちを事細かにパーツを組み合わせながら、青ちゃんのお姉ちゃんを中心となり、時には一人、場面に応じて2名のスタッフで、大人が出しゃばらないような微妙なタイミングバランスで、手をかけないで、眼をかける子どもにとって、ストーカーにならない誘導型教育を展開しています。素敵な集団ができあがっています。



【結婚式】

11月は、姪の結婚式が2度ありました。今の時代「ウェルカムボード」という存在があるのですね。単なる表札かと思っていたら、式場の入り口に飾る物らしい。それだけで役目を終わるのがもったいないと感じ、家の表札にもなるようにと、勝手に大きな自分流のウェルカムボードを作りました。(といっても、実際の巷にあるそれは見たこともありませんが)。どちらの結婚式も、式場入り口に飾られ、紹介までされてとても嬉しい時間でした。

青ちゃんのお姉ちゃんの娘の結婚式は、ディズニーシーのミラコスタ(誰でも知っているらしいが、私は知らなかった)。ちょうど前日に恒例のお話勉強会で東京に出掛けているので、そのまま東京に居て、当日、ミラコスタへ向かいました。新宿の友人宅から、もちろん自転車で出発。道路地図を片手に大きな道路や袋小路をほぼ直感で自由自在に走りました。今回1番の楽しみであり冒険旅行気分です。新宿ビル街、池袋オフィス街、飯田橋、大手町、桜田門、皇居日本橋など、日本の代表的な光景に寄り添いながら、普段の自分がそこにいる不思議さと飯綱も東京も変わらぬ日常の自分のおもしろさにどきどきした楽しみがありました。このまま、どこまでも行きたい気分でした。長野のように坂がないので、とても楽ですし、同じような自転車仲間がたくさんいることも励みでした。

約2時間後には、浦安の町に入り、いよいよディズニーランドの看板が目に入ってきました。そして、どんどん非日常世界になり、同時に自転車で走る姿も浮くようになり、とうとうミラコスタ前では、自転車が入っていいのと戸惑いながら、いそいそとホテル玄関前まで自転車入り、スタッフに訳を話し、その前で無事到着となりました。その20分後のは、長野から親戚一同が乗ったバスが到着しました。その間、ミラコスタ玄関横のベンチで、自転車傍らに、弁当を食べて本を読んでいるおっさんの姿は、周囲にいたディズニー観光客や結婚式のお客達にはかなり違和感が合ったかも知れません。でも、私は、久しぶりに一人でわくわくした旅の気分を味わいました。普段の暮らしとは違う世界や非日常世界でも、それに合わせ飲まれるのではなく、自分のペースを守り、自分の価値観と尺度で、それらを逆に自分に取り込み楽しむスタンスが、味を生み出すのでしょうか。きっと、今、南米にいる長男もそんなスタイルだからこそ、素敵な旅を続けられていると思います。

その結婚式も、たぶん80歳を超えた私の両親もたぶんすごい刺激だった事でしょう。ディズニーシー内の海(池でしょうか)へのパレードに大勢の観光客に見守られながら入っていく姿はおもしろかったです。もちろん、教会での結婚式、ミッキーマウスなどが登場する披露宴、居並ぶ料理もディズニーランド創作、これだけ徹底していたら、さすがにうなりますね。すばらしかったです。終了は7時を超えていたので、さすがに自転車は無理でしょう。雨の中、自転車をバスに積んで、夜中の12時過ぎ、無事、真っ暗な大地へ戻りました。ついさっきまで、華やかなディズニーランドにいたのに。

所変わって、たくさんの林檎と結婚式小道具と長女と次男を連れて、京都の結婚式へ向かいました。こちらの姪は、甥の僧侶が、仏前結婚式で、もちろん妻の実家(姪の家兼寺)で執り行われました。甥の結婚式も11年前に同じようにここで行われました。前日から白い布がテーブルにかけられ、その上に小さな杯が置かれ、仏壇に向かって赤い毛氈が敷かれました。持参したウェルカムボードの裏面に、墨で詩「祝婚歌」を描いて、寺の玄関に飾りました。当日は、朝から白無垢姿の花嫁が出来上がっていました。お経が唱えられ、三三九度が行われ、外の本堂前と紅葉の銀杏の木の前で白無垢姿の写真は圧巻でした。もちろんウェルカムボードも一緒でした。

披露宴は、平安神宮そばのレストラン。甥の披露宴同様、今回も私たち夫婦が司会をさせてもらいました。ほぼぶっつけ本番の夫婦の直感に任せた司会です。いろいろ盛り上がりながら、終盤には「祝婚歌」を朗読させて貰いました。こうして、秋の紅葉真っ盛りの結婚式は終わりました。翌日は、林檎の配達等にいつもの長野仕様で朝から終日林檎まみれになりながら、働きました。そして、ようやく翌日、早朝から自転車に乗り、夫婦で静かな銀閣寺哲学の道を、紅葉を感じながら、歩き、本を読みゆっくりと過ごしました。

どちらの結婚式も、まさに静と動、陰と陽、収縮と拡散という大きなリズムのあるものとなり、素敵なバランスに満ちたタイミングになるものだと、おかしくなりました。

でも、どんな世界も、自分の価値観と尺度を曲げて、相手の価値観に合わせると疲れるものです。「郷に入れば郷に従う」事は大切ですが、その中でも、それに従いながら、自分を見失うことなく、その相手のすばらしさを、自分流に自分のスタイルで楽しむこと、自分流にかみ砕き工夫しながら楽しむスタイル(もちろん相手に失礼なくですが)を貫くこと、そんな暮らしが私は素敵だと思っています。そんな暮らし方を、今、長男や長女、そして次男の生き方を見ると、とても輝かしく感じる事が出来ます。子ども達から学ぶ事もたくさんあり、これからの私たち夫婦の人生の楽しみを子ども達から学んでいますし、その思いに負けれないエネルギーが湧いてきます。

先月号「童」に書いた「生きる力」とは。

自らを常に磨く力であり、集団の中における適切で調和的な立ち位置を確保し、人生を楽しみ、目的を定め、挑戦し、自己実現にむかう力だという。もう一度噛みしめてみました。